

県コンクリート骨材対策協議会総会

桑木会長
再選

砕砂の研究推進

県コンクリート骨材対策協議会(桑木喜行会長)は21日、鹿児島市のベイサイドガーデンで第3回通常総会を開き、砕砂の使用拡大のための研究推進などを柱とする14年度事業計画を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では、全員を留任し、桑木会長(県生コンクリート工業組合)を再選した。

総会では、初めに桑木会長が「県公共事業等骨材確保対策協議会で15年度に行われる骨材確保に関する長期見通しについて、技術問題、環境問題等を検討する2つの委員会を今年度に設置して頂き、抜本的な改定をお願いすることに尽力していきたい」と挨拶。

続いて、桑木会長を議長に選出し議事に入り、

長に選出し議事に入り、



新事業計画等を決めた総会
＝鹿児島市のベイサイドガーデンで

新年度事業計画の主要事業は、①技術研究―骨材の現状調査やコンクリート実験等②砕砂研究―生コンや2次製品等への使用拡大に向けた砕砂の調査研究、砕砂の製造技術及び環境対策の調査等③シラス及び再生骨材利用等開発研究―強度・耐久性・施工性などの調査、再生骨材利用調査研究等④輸入砂調査研究―輸入仕入れ先の調査、輸入砂受け入れ体制の調査研究などを掲げている。

新役員は次の通り。

会長＝桑木喜行(副会長)＝東郷庄三郎(県砂利協同組合連合会)▽理事＝鎮守良卓(県砕石協同組合連合会) 松崎正年(県コンクリート製品協同組合) 中西伸一(県積ブロック工業組合) 米盛庄一郎(県アスファルト合材協会) 三谷純夫(県再生骨材協会)▽監事＝中俣純雄(県積ブロック工業組合) 草野純高(県砕石協同組合連合会)

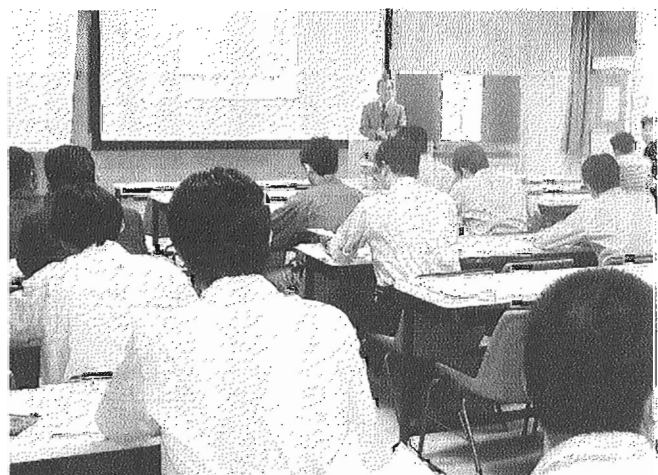
鹿児島大学公開講座

PFI・NPO等参加が前提

鹿児島大学は19日、鹿児島市の同校で14年度鹿児島大学公開講座を開き、一般市民及び建築業関係者、行政担当者らが多数出席、「トピックス建築再生」と題し近年注目する5つの話題に参加者らは真剣に聴講し、今後の

鹿児島大学は19日、建築業の方向性を探って、

同日は、三菱地所設計の杉山隆之氏(鹿児島大学客員教授)が「PFIの現状と公共建築の可能性」、同大学の皆川洋一



建築の方向性探った公開講座
＝鹿児島市の鹿児島大学で

建築学科教授が「日本の木造大空間建築技術」、赤坂裕嗣が「屋上と壁面の緑化」、安山宣之助が「路地空間のロジック」、岩下剛助が「シックハウスの健康性・快適性」などについてそれぞれ解説した。

このうち、杉山教授は「PFI法制定以来今年の7月末時点の日本では実施工事が公表されたPFI事業は61件で多くの導入可能性調査を実施している」と前置きし、PFIの定義やPFIと公共事業・第三セクターとの違い、PFI事業のプロセス、代表的な例などを説明した。

PFIの可能性による公共建築の可能性については「契約性の観点、プロジェクトファイナンスの未成熟の事情から、比較的大規模でない企業だけで構成するコンソーシアムへの民間融資はリス

子供の成長を励みに

南 礼郎さん

19歳で結婚して早3年が経ちましたが、振り返ってみると2歳になる長女と1歳6カ月の長男の子守りに追われた日々だったような気がします。特に週末



有様です。

子供の成長の早さに驚かされてばかりです

(株)江藤建設工業

現場見学会を開き、関係者と地域住民が多数参加した。

見学会は、完成間近の同庁建物内覧を実施するために開催したもの。同新庁舎は、大隅町に点在する国の5機関の施設が老朽化したこと、業務及び利用者の利便性向上と敷地の高度利用などを目的に合同化し建設された。

鹿児島県営

大隅合庁新営工事

町に溶け込む施設

利用者の利便性向上を目的に建設された大隅合庁
＝大隅町岩川の現地で



国土交通省鹿児島管轄工事事務所は19日、曾於郡大隅町の岩川駅跡地で、大隅合庁新営工事の現場見学会を開催した。

同合庁の場所は、大隅町岩川6491-12で、敷地面積4125平方メートル、延べ3521平方メートル。外観は、シンプルながらフォルムとレンガ調アスカラを基調とした色彩で、太陽光発電、水蓄熱空調、高効率化照明など環境負荷低減への取り組みも行っている。建築は松井建設(株)、電気設備は浅海電気(株)、機械設備は(株)日エレベーター設備はフジテック(株)、書架等設置工事は金剛(株)、設計は(株)東畑建築事務所、工事監理は(株)鮫島建築設計事務所と(株)鹿児島設備連合設計が担当。総工事費は12億7300万円。

入居する機関と業務開始日は、大隅区検察庁が2階で11月21日から、鹿児島地方裁判所大隅出張所が1階で同月11日から、自衛隊鹿児島地方連絡部大隅募集事務所が2階で同月1日から、熊本国税局大隅税務署が3階で同月18日から、鹿児島統計情報事務所大隅出張所が4階で同月13日からとなる。

門原 卓也さん(鹿屋工3年)

人一倍強かった。設計課題は、昨年と同じく「住宅地に建つ線のシンプル化」と心に決めた。



「家族で笑っていますか?」とのタイトル。車イス使用の主人が夫婦寝室から各室、トイレ、キッチン、ドッキ等へ容易に移動でき、段差解消機で庭に出ることも

「先生から教え込まれた」という図面の書き込み、室内外の透視図のタッチは群を抜いて優れ、審査員の好評を得た。

鹿屋工業高校建築科3年。今後の進路は、鹿児島市内の建築会社への就職を希望。「一次選考にはパスしているそうだが、できれば、住宅の設計をしたいです」。

住所は鹿屋市萩塚

動線をシンプルに